南病棟 3 階

(脳神経内科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

1. 看護単位の概要

病床数 48床

脳神経内科 25床 歯科口腔外科 13床

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 5床 共通病床 5床

2. 病棟の特徴

1) 脳神経内科

パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、てんかん、外科的治療を要しない脳卒中、感染性脳炎、炎症性疾患などの脳・脊髄、神経、筋肉に関連する疾患の治療や看護を行っている。脳神経疾患の患者は老年期の患者が多く、疾患による認知機能障害や運動麻痺、ADL低下により、障害の受容と病気になる前の生活の変更を余儀なくされることも多い。今もなお、原因不明で根治治療の確立されていない神経疾患は多いが、最近では疾患の解明と治療は目覚ましい発展を遂げている。そういった先進医療への対応とともに、病状とライフステージに合わせた長期的な療養支援が入院前より必要であるため、他職種と協働しながら患者の療養支援や意思決定支援を行っている。

また院内でユマニチュード[®]の研修を修了したスタッフがリーダーシップをとり、患者にも看護師にも心地よいケアの提供について取り組んでいる。

脳神経内科専門外来にはてんかん診療支援センターがあり、てんかん診療では国内で唯一、減薬中のてんかん発作時の転倒・外傷予防策として天井走行型リフトを設置した長時間ビデオ脳波モニタリング室を2室設けている。毎週1回医師とてんかんカンファレンスを行い、患者の生活上での困難を他職種とも連携し入院・外来を通して安全かつ患者の社会生活を支援している。

2) 歯科口腔外科

顎変形症、口腔内腫瘍、顎顔面骨折、顎関節症、智歯周囲炎、蜂窩織炎、骨髄炎の外科的治療に対する周手術期看護や高圧酸素療法などの保存的治療や看護を行っている。近年、周囲炎やう蝕などの口腔疾患は全身の健康に深くかかわっていることが明らかとなり、QOLの向上につながるオーラルマネージメントの実践に取り組んでいる。

3) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

聴覚障害に対する鼓室形成術及び人工内耳の埋め込み術、突発性難聴・顔面神経麻痺に対するステロイド治療や高圧酸素療法、副鼻腔炎に対する内視鏡手術、扁桃炎に対する手術、また「頭頸部外科」といわれる頭頸部癌に対する外科的切除、放射線治療、化学療法、またターミナル期も含めた緩和ケア、さらに開口障害・発声などの機能障害に対するリハビリテーションなどを行っている。